東邦大学医療センター佐倉病院

医療連携セミナー

第８回・第９回
東邦大学医療センター佐倉病院
医療連携セミナー 開催報告

医療連携・患者支援センター長
吉田 友英

医療連携・患者支援センターでは、地域の先生方と密な連携を目的として5年ぶりに医療連携セミナーを再開いたしました。このセミナーは診療科単位で、ご紹介いただいた症例のレビューと関連領域のミニレクチャーを基本として開催しています。

2019年4月26日（金）に再開第1回となる東邦大学医療センター佐倉病院医療連携セミナー（通算第8回）を開き、脳神経外科准教授根本匡章による「手術に至った2症例の報告～ご紹介いただいた症例より～」、同教授 長尾建樹による「こんな頭痛は危険な兆候（しるし）～脳神経外科医にコンサルトすべき頭痛～」の講演を行い、院内外合わせて、多職種42名のご出席をいただきました。

脳神経外科 根本匡章

消化器内科 松岡克善

次いで、2019年6月6日（木）に第9回 東邦大学医療センター佐倉病院医療連携セミナーを開催しました。消化器内科レジデント 柴本麻衣、同助教 岩下裕明に「症例から学ぶ治療方針」と題してご紹介いただいた4例のレビューと様々な鑑別疾患の提示、同教授 松岡克善による「炎症性腸疾患Update」の講演を行いました。こちらも院内外合わせて、多職種50名のご出席をいただきました。

両日とも、ご紹介をいただいた医療機関の先生もご出席され、多くの参加者からご質問とコメントをいただき、有意義なディスカッションの場となりました。

第8回では講演中にお弁当を召し上がっていただき、講演会終了後にティータイム形式で情報交換会を行い、第9回では講演会終了後に立食形式の情報交換会を開催しました。どちらも遅い時間にもかかわらず大勢の方にご参加をいただき、まさに顔の見える医療連携の構築とともにより一層親睦を深めることができたと思います。

第８回質疑応答の様子

次回は、2019年9月5日（木）に第10回 医療連携セミナーの開催を予定しております。今後も地域との「顔の見える医療連携」、「対話する医療連携」のさらなる発展のため、ご紹介いただいた症例を中心として有意義な内容となるように準備して参りますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

第９回懇親会の様子

次回セミナーのご案内

第10回 医療連携セミナー

2019 9/5 木
19:30～21:45

開催場所	東邦大学医療センター佐倉病院 7階講堂
SESSION 1	「症例から学ぶ治療方針～重症下肢虚血 / 心筋梗塞 / 心不全～」
SESSION 2	特別講演「デバイスの進歩～不整脈治療に用いられるペースメーカー、植え込み型除細動器、除細動機能付き心臓再同期療法～」

出席いただける方は、医療連携・患者支援センターまでご連絡ください。
今後は、第11回 10月31日（木）、第12回 12月4日（水）の開催を予定しております。

公開講座スケジュール

2019.6.27 現在　教育支援室

2019年　佐倉病院公開講座のお知らせ

入場無料・申込不要・200席

ご参加お待ち致しております

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと存じます。
講演テーマなどの詳細につきましては、院内掲示およびホームページなどでご案内致します。ご不明な点や講演テーマのご要望などございましたら、総務課にご連絡下さい。

	7 July	8 August	9 September	10 October	11 November
開催予定日	13日 土曜日 13:00～15:00	休会	28日 土曜日 13:00～15:00	5日 土曜日 13:00～15:00	9日 土曜日 13:00～16:00
講演予定テーマ	<地域で考えるケアと治療> お酒とからだの付き合い方		遺伝と病気	調整中	<地域で考えるケアと治療> 認知症とともに歩む“診断と治療”
担当	脳神経内科 他		<臨床遺伝診療センター> 竹下 直樹 他	<腎臓内科> 大橋 靖 他	脳神経内科 他

東邦大学医療センター佐倉病院
臨床病理症例検討会 開催予定
（場所：東棟７階・講堂）

第201回：7月25日（木）18時00分～
第202回：9月 9日（月）18時00分～
第203回：10月21日（月）18時00分～

地域の医療機関の皆様もご参加いただけます。
詳細は病院ホームページでご確認ください。
（問い合わせ先：教育支援室）

東邦大学
佐倉だより
Vol. 45　2019,7,1

東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局
〒285-8741
千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL 043-462-8811(代)
FAX 043-462-8820(代)
URL https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp

基本理念
- 医療の目的：質の高い医療を安全に提供する病院
- 病診（病）連携：地域に貢献する病院
- 教職員のあり方：人間愛を共有する病院
- 職場環境：楽しく明るくチャレンジする病院
- 生涯教育：良き医療人を育成する病院

患者の権利
- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

Topics News

1 Executive Message
世界に誇る肥満外科治療
-NHKワールドで世界に発信-
副院長／教育担当　龍野 一郎

2 アピールしたい診療と研究 #19　放射線科（放射線診断部門）准教授 稲岡 努　教授 寺田 一志
3 当院の災害時医療に対する取り組みについて　副院長（医療安全管理・防災対策担当） 岡住 慎一
災害医療について　外科 助教 門屋 健吾
4 医療連携セミナー　第8回・第9回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナー 開催報告　医療連携・患者支援センター長 吉田 友英
公開講座スケジュール／臨床病理症例検討会のご案内

Toho University
Sakura Medical Center

副院長／教育担当
龍 野 一 郎
Ichiro Tatsuno

Executive Message

世界に誇る肥満外科治療
-NHKワールドで世界に発信-

東邦大学医療センター佐倉病院　糖尿病・内分泌・代謝内科では肥満外科治療を含めた統合的肥満症治療を行っております。高度肥満患者に対し、消化器外科とともにチーム医療で取り組んでいる肥満外科手術（減量手術）では全国の大学病院の中で最上位の手術数を誇っています。

減量治療としては運動・食事・認知行動、それに薬物を加えた内科治療が基本ですが、BMI35以上の高度肥満患者は食育環境、独特の性格特徴、精神疾患の合併、不適切なストレス対応、食行動異常、不適切な認知など複合的要因により内科治療の効果は限られていました。このため欧米では広く減量手術が行われ、手術の長期にわたる減量効果と安全性が証明され、米国では年間20万件、全世界で50万件を超える手術が行われています。肥満外科手術（減量手術）は美容整形的な脂肪吸引とは根本的に異なり、摂食制限を狙った胃バンド術、胃を細くする胃袖状手術（スリーブ術）、胃と腸をつなぎ変える胃バイパス手術の3法が代表的手法です。

近年、肥満2型糖尿病患者に対しても術後体重の減少とは独立した糖代謝改善が認められ、代謝手術とも呼ばれるようになり、米国糖尿病学会は肥満2型糖尿病の患者に対してBMI30（アジア人27.5）以上の患者に推奨し、2017年にロンドンで開催されたThe 2nd Diabetes Surgery Summitでも同様の治療指針が公表され、日本糖尿病学会もこの指針に賛同を表明しています。

2017年の報告では国内の手術症例数は500例弱にとどまっており、2016年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）「食欲中枢異常による難治性高度肥満症の実態調査」のための研究班（龍野班）の調査によると、現在すでに手術適応と考える高度肥満2型糖尿病患者が3万人も存在すると推定しており、早急な施設拡充などの対応が必要です。また、糖尿病の完解には胃スリーブ術にバイパス術を加えた腹腔鏡下スリーブ状胃切除術および十二指腸空腸（腹腔鏡下スリーブ・バイパス術）の有効性が証明され、2018年には先進医療として追加承認され、東北大学病院と東邦大学医療センター佐倉病院の2施設が認定されています。

このような当院での肥満外科手術を含めた統合的な肥満症治療は全国的に注目を集め、2019年3月19日（火）にNHKの海外向け放送であるNHKワールドの中で、日本の先端医療を紹介する「Medical Frontier」で取り上げられて30分番組として英語で放映されました。現在もインターネット上で視聴が可能ですので、ご覧いただければ幸いです。
（https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2050070/）

アピールしたい 診療と研究

#19

放射線科（放射線診断部門）にズームアップ！

准教授　稲岡　努
教授　寺田一志

放射線科（放射線診断部門）スタッフ

放射線診断部門の紹介

放射線診断部門は、画像診断、IVR（インターベンショナルラジオロジー）から成り、画像診断では主にCT、MRI、核医学の検査指示、読影を行っています。また、IVRでは画像診断機器を使用して血管造影及び血管内治療、ドレナージ、生検などを行っています。現在、診断専門医６名が常勤し、そのうち核医学専門医を３名、IVR専門医を１名が取得しています。当院の後期研修プログラムには５名が所属しており、専門医養成基幹施設の認定も受けております。

昨今、画像診断を取り巻く環境は大きく変化し、医療におけるその重要性は拡大しています。CT、MRI、核医学などの撮像機器、診断ビューワーなどの診断機器の進歩により、迅速かつ正確な病気の診断・治療が行えるようになっています。画像診断は診療における診断法の一つですが、客観的な診断法として現代の医療においてその役割は増加しています。専門的なトレーニングを受けた専門医が検査指示から画像確認まで携わり、ときには画像解析を加えて各診療科に画像診断報告書を作成することは現代の複雑化した医療のなかではもはや必要不可欠となっています。核医学では、近年増加する認知症、変性疾患に対する検査が注目されています。パーキンソン病・レビー小体型認知症に対するDATスキャンは昨年度の検査数は526件で、県内でも有数の実績を誇っています。院外からの検査もお受けしています。IVRでは、通常の血管内治療に加えて緊急性の高い出血性病変にも対応し、子宮温存可能な子宮動脈塞栓術も積極的に行っています。また、血管外ではドレナージに加えて、肺病変や腫瘍などの生検も画像下で行い、迅速かつより正確な病理診断を行っています。昨年度の検査数は140件ほどで県内でも有数の実績となっています。虚血性心疾患に対する冠動脈CTに加えて、心筋疾患などの心形態及び心機能評価、心筋viabilityなどを評価する心臓MRIも行っています。外部施設からの画像検査依頼もお受けしており、中枢神経、四肢関節をサブスペシャリティとした診断専門医が常勤し、数日で検査結果をお出ししていることもあり、中枢神経及び四肢関節の画像検査は増加し、依頼検査の80％以上を占めています。

医療の第一歩は正確な診断であることは言うまでもありませんが、診断が変われば治療も変わります。現代の医療では各領域における専門的な知識が必要となる一方、全身状態を把握する幅広い知識も必要となっています。様々な目的で撮像される画像に想定外の病気が描出されることも少なくありません。放射線診断医は画像診断を担うと同時に、ときには診療の相談役、診療科間の潤滑油としての役目も果たし、安全かつ正確、効率の良い医療に役立っています。これからも放射線科、中央放射線部、看護部が一丸となり、各診療科、各医療機関と連携して、画像診断、IVRと現代の医療に日々取り組んで参ります。

TOHO UNIVERSITY SAKURA MEDICAL CENTER × IRYO ANZEN KANRI / BOSAI TAISAKU

当院の災害時医療に対する取り組みについて

副院長（医療安全管理・防災対策担当）　岡住 慎一

当院は 2016 年 3 月に災害拠点病院の指定を受け、災害時トリアージ訓練などの院内体制の充実や地域関係施設との連携構築などに取り組んで参りました。特に地域における連携については一朝一夕にできるものではなく、通常の診療における連携をベースに様々な協力体制を作り上げていかなければなりません。

佐倉市・八街市・酒々井町消防組合との共催で「救命と安全の連鎖研究会」を毎年開催しておりますが、今年の 3 月で 11 回を数えます。2017 年の第 9 回からは市役所、保健所、警察と佐倉市中核病院（聖隷佐倉市民病院・佐倉中央病院）、佐倉地区医師会代表にもご参加いただき、災害時医療に関する演題を必ず盛り込んで参りました。また、2月に開催しました「第 8 回 医療連携学術フォーラム」では“ 災害医療と地域連携 ”をテーマに取り上げ、当院の担当者（医師・看護師）の発表に加え、聖隷佐倉市民病院 副院長の有田誠司先生にご講演を賜りました。さらに 4 月には“ 災害医療 ”をテーマとした公開講座を開催し、市民の啓発活動にも取り組んでおります。

このような活動を行ってきましたが、まだ充分な体制が構築されているわけではなく、行政の主導的役割も不可欠です。今後も地域における連携強化を図って参りますので、関係各施設のご協力をお願い申し上げます。なお、９月６日（金）・７日（土）に厚生労働省主催の大規模地震時防災訓練が千葉県を主体に開催され、当院も参加致します。その際、近隣医療機関・消防・佐倉市と共にトリアージ訓練を当院で７日（土）午後に実施する予定です。**ご参加、ご見学等受け付けておりますので、事前に当院総務課までご連絡ください。**

公開講座 災害医療について

外科 助教　門屋 健吾

災害医療をテーマとした公開講座を本年 4 月に開催しました。今回は DMAT（災害医療派遣チーム）有資格者 4 人が各分野に別れ、1. 災害医療体制と地域連携について、2. 災害時における応急手当の実践方法、3. 被災した際の内服薬の扱い方、4. 被災地で行いうる運動療法について皆さんに紹介しました。

ここ 10 年の間に高確率で起こるとされている首都圏直下型地震に備えて、当然我々医療従事者は病院運営に混乱をきたさぬように平時からのシミュレーションを心がけております。市民の皆様にも当院が地域の中核病院として、また災害拠点病院としてどういった運営がなされているかを知っていただく必要があります。指令体制云々までは必要ありませんが、災害医療について理解を深めるには良い機会だったと考えております。実際に被災した際、各々で対処可能であるものを自分達で応急処置できれば来院傷病者数を減らすことができますし、移動に伴う二次災害も防ぎうることができます。災害とは救護所・避難所でのインフラ不足、食料不足、薬不足など、混乱となりうる事象が膨大な緊急事態です。避難の際にお薬手帳を持ち出せなかった場合でも、皆さんがご自身の内服薬や既往歴を把握されているだけで、対応する側の混乱は大幅に軽減されます。また、その場で運動をすることで肺塞栓症、静脈血栓症を予防することも非常に大切になってきます。

佐倉市が他の地域と比較して甚大な被害をこうむることはあまり想定されていません。故に湾岸地域からの受け入れを求められる場面もでてくるものと思われます。その際に我々医療従事者がいかに冷静に対応できるかが、市民の皆さんの健康・安心に直結してくるということを意識しながら日々の診療に携わっております。有事の際にも皆さんの期待に応えられるような病院づくりをこれからも心掛けて参ります。

公開講座の様子